（様式⑦　小中学校）

確かな学びと豊かな心･健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立大仙西小学校
校長　　土屋　千紗

中学校区におけるめざす子ども像

ちがいをみとめ，ともに生き，将来の夢と希望に向けて自ら学び続ける子

2025 年度　重点目標

『自立と共生の教育創造』　なかまとともに自らの生活をきりひらいていく行動力をもった子どもの育成

本年度の重点目標として「すべての子どもの学習・学力保障から進路保障へ！」～子どもとつくる　豊かな学び～を設定。具体的には❶「安心して学べる居場所」としての学校づくり　❷実践と一体化した研究推進　❸子ども支援教育の充実　❹不易流行と教職員の「働き方」の見直し　❺「日本語指導教室」をベースとした取り組みを「チーム大仙西」として推進する。

「確かな学び」の現状

・学校全体としては、「静謐な学習環境」を維持し、落ち着いた雰囲気で授業に取り組んでいるが、登校できていない児童の家庭への連絡（登校を支援する）が必要な現状がある。
・学力・学習状況調査の結果を分析しても、学習への意欲・関心についての成果は見られるが、基礎基本の学力や家庭学習の定着については課題があり、全国・堺市平均の数値を下回っている。
・習熟度分割授業の推進や、堺スタンダード型授業の推進に取り組んでいるが、個別支援の必要な子どもたちへのアプローチにも多くの時間が必要である。
・聞きあうクラスづくりの取り組みから「学びを深める」ためのスモールステップを進める。

「豊かな心・健やかな体」の現状

・「自立と共生」の教育創造のベースには、「心」「体」の発達が不可欠である。
・「健やかな体」の育成に関しては、全学年が体育の授業の中で必ず「体づくり運動」（本校オリジナルの運動）を取り入れ継続的な体力づくり（体づくり）に取り組んでいる。同時に、「食教育」「健康教育」とも連動した取り組みを推進している。
・「豊かな心」の育成に関しては、「人権教育（主として人権総合学習）」「道徳教育」の実践・研究を通して、自尊感情の醸成やコミュニケーション力の育成に取り組んでいる。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組（●重点とする取組、★中学校区での取組）	判断基準（評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認（～１１月）		達成状況（年度末） 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	個別支援の充実	「すべての子どもに学力保障を!」合言葉に、すべての子どもが安心して学べる環境を保障し、個々の支援の徹底を図る。	●「すべての子どもに学力保障を!」の理念を徹底し、どの子も安心して学べる環境を創造する。	未登校児童の欠席率を 5%減少 ケース会議の推進（月１回以上）	学校教育アンケート 学校教育アンケート	１月 １月	△	未登校児童の欠席率については，昨年度と同程度となっている。今後も粘り強く取組を継続する。	○	働きかけを継続することで未登校児童のうち平均して８割以上の児童の登校を促すことができた。研修会議やケース会議を定期的に行い，必要に応じて少人数での会議を臨時的に行うなど，情報共有を密にすることで，指導支援に活かすことができた。	○	いつもていねいに子どもたちと関わっていただいている。今後も引き続き，働きかけをお願いしたい。
			全教職員による、気になる子どもの情報共有。 支援・通級・通常学級での情報交換	研修会議・職員会議での情報交換 連絡カードによる日々の情報交流。	学校教育アンケート 学校教育アンケート	１月 １月	○	定期的な情報交換を必ず実施している。引き続き全教職員で情報の共有を行う。	◎		◎	
	基礎学力の向上	「すべての子どもの学習・学力保障から進路保障へ」言語活動の充実 ・基礎学力の定着を図る ・語彙力の向上を図る ・自分で考え，そのことをノートに書いたり，自分の言葉で他の人に伝える指導の推進	●「すべての子どもの学習・学力保障から進路保障へ」の具体化のため計算力の向上と定着を図る。	基礎計算力のチェックを年２回実施し、成果と課題を分析し実践に活かす	チェックテスト	年２回	△	計算チェックで明らかになった課題をもとに，計算タイムや宿題などで繰り返し練習し，定着を図っている。	○	基礎基本の定着に向けては，計算タイムや宿題を工夫し，既習の内容や間違えた問題を繰り返し練習することで定着を図った。また，児童の「振り返り」に着目した研究により，児童の思いや考え・学習状況を把握して授業づくりに活かしたり，児童の達成感や意欲につなげたりすることができた。今後も，聞き合うことで学びを深めながら，語彙力を向上させるための取組について研究をすすめていきたい。また，中学校区での合同研修や公開授業などで教職員の交流や研修を複数回行った。次年度も引き続き授業改善に向けた取組をすすめていきたい。	○	語彙力の向上にむけては，読書も大切にしてほしい。子どもたちも落ち着いて学習に取り組んでいる。基礎基本の定着に向けては宿題の工夫なども継続してほしい。
			●タブレット端末の効果的な活用等により、児童が興味を持って取り組める授業の実践を行う。	日々の授業内容	実践報告	１月	△	タブレット端末を日常的に活用しているため，児童が積極的に活用できている。引き続き取組をすすめていく。	○		○	
			★言語活動を重視し、全学年で「語彙力アップ」の取組を推進し、研修会議で成果と課題を交流・分析する	「語彙力アップ」の取組の交流 「語彙力アップ」のための教材研究	研修会議 夏期校内研修会	毎月 ７月・８月	○	「語彙力アップ」の取組交流のほか，児童の「振り返り」に重点を置いた授業実践を研究し，語彙力の向上に向けて取り組んでいる。	◎		◎	
			★中学校区全体で連携して授業改善の取組を推進するとともに、「聞きあうクラスづくり」を徹底する。	「聞きあうクラスづくり」の取組の交流と授業改善の取組交流	実践報告 情報交換・発信	年３回 １月	○	考えたことや思いを聞き合う活動を行っている。中学校区の合同研修や公開授業などにより，授業改善の取組をすすめている。	◎		◎	
豊かな心･健やかな体	心と体の育成	・「自立と共生」をめざした心身の育成を図る。 ・「いじめ」「ＳＮＳに関する」生徒指導の徹底 ・人権総合学習の深化・充実を図る。	大仙西小オリジナルの「体づくり運動」の徹底と考え話し合う体育授業の推進	共通指導項目の徹底とチェック スポーツテストの記録向上	学校教育アンケート スポーツテスト	１月 ６月	○	全学年で共通した体操を取り入れ，授業や行事などで行い，基礎的な体つくりに取り組んでいる。	○	各学年の体育授業において、基礎的な体つくりに取り組むことができた。 児童の声・様子を迅速に共有することで，児童の抱える悩みや課題に寄り添い，トラブル等の早期発見・早期対応に取り組んだ。ＳＮＳ等によるトラブルについては，引き続き注意喚起や未然防止のための取組を行う必要がある。人権総合学習では人との出会いを重視して学習活動をすすめ，自分に誇りを持ち，互いに尊重し合うことの大切さを学んだ。	○	チームとして組織的に対応していただいている。ＳＮＳ等ネット上でのトラブルの未然防止に向けて引き続き取組をすすめてほしい。
			●「いじめゼロ」をめざした取り組みの推進。 ＳＮＳ関連のトラブルの早期発見と指導の徹底	いじめアンケートによるチェック 研修会議等での情報交換	いじめアンケート 研修会議	年３回 毎月	○	いじめアンケートによるチェックを行うほか，児童の声・様子などから早期に対応し，情報を共有している。	◎		◎	
			★「人権総合学習」の深化・充実により、「自尊感情」の醸成と「人権感覚」を磨いていく。	各種学習状況調査やアンケートの「自尊感情」のポイントアップ	学校教育アンケート 児童アンケート	１月 １月	○	全学年で取り組み，人権総合学習や授業・行事を通して自尊感情の向上に努めている。	◎		◎	
	関係づくり	・豊かな人間関係づくりを育むための「学級集団づくり」の取り組みの推進。 ・コミュニケーション力の育成	★国語科や人権総合学習の研究授業を通して「聞きあうクラスづくり」からの学びの深化。	国語科や人権総合学習の研究授業 （コミュニケーション力育成の取り組みの交流）	学校教育アンケート 指導主事等による評価	１月 年６回	○	児童の学習の状況や学習内容に応じて，学級全体・ペア・グループ活動での話し合い活動を工夫し，取組をすすめている。	◎	互いの思いや考えを聞き合い，学びを深める学習活動を重視して取り組むことができた。「振り返り」の共有により，仲間の考えを自分の学びに活かしたり，自分の学びを確かなものにしたりする様子が見られた。地域・学校群内での出会いや交流を充実させ，人とつながり続けることの大切さを学んだ。	◎	地域との交流や３校交流等学校群での取組をしっかりすすめていることがわかった。引き続き取組を充実させてほしい。
			「人権総合学習」の深化・充実により、人との豊かな出会いが保障される場を設定する。	人権総合学習の授業研究 人権総合学習の取り組みの交流・評価	研究授業討議 学校教育アンケート	２学期１回 １月	○	地域の方をはじめ，様々な方と出会う機会や，学校群内の児童生徒との交流を充実させた取組をすすめている。	◎		◎	
学校チーム力	チーム力の向上	・個々の危機対応能力のアップ ・「チーム力」アップによる「働き方改革」の推進	個々の教職員の企画・立案力ならびに危機対応能力の向上を図る。	個人提案・個人発表の機会を増やす。 危機管理意識の徹底を図る。	運営委員会 学校教育アンケート	毎月１回 １月	○	様々な危機事象を想定した避難訓練等を実施し，意見交流等を行った。	◎	年間を通して，様々な危機事象を想定した避難訓練を行い，危機意識を高めることができた。月平均滞在時間は現時点で平均約 35 時間であり，昨年度から２時間程度減らすことができた。引き続き会議のスリム化・効率化に努める。	◎	教職員の健康も大切にしながら教育活動を充実させてほしい。
			「チーム」による取組をさらに推進し、会議のスリム化・効率化を図る。	月平均時間外滞在時間 45 時間以内を維持する。	学校教育アンケート 時間外滞在時間	１月 毎月	○	月平均時間外滞在時間が現時点で平均約 36 時間となっている。引き続き会議のスリム化・効率化を図り，維持に努める。	◎		◎	

校長より（年度末）

今年度も「自立と共生」の教育創造に向けて「チーム大仙西」で取組をすすめた。人権総合学習の深化・充実、一人ひとりの児童に寄り添った学習支援等により、安心して学ぶことのできる学級・学校づくりに取り組んだ。次年度もさらに取組を充実させていきたい。また、保護者や地域の方の見守りや声かけ、様々な方の学習活動へのご支援やご協力があったからこそ、子どもたちが人とつながることのあたたかさを感じ、なかまを大切にしたり、自分の力を発揮したりすることができた。次年度も、保護者・地域の方々と連携を密にしながら、今年度の課題を踏まえ、よりよい学校づくりに取り組んでいきたい。

学校関係者評価者から（年度末）

子どもたちが落ち着いて学習に取り組むことができるよう、学校全体で愛情深く子どもたちに関わっていただいていることがよくわかる。今後も地域・保護者と連携しながら、子どもたちのために尽力していただけたらと思う。